



大人も子どもも  
心ゆくまで楽しめる

「騒いで迷惑をかけるので、図書館には  
小さな子どもを連れて行きにくい…」  
こんな悩みに応えて、中央図書館がリニューアル。

遮音性の高い天井までの書架でエリアを区切り、音の問題を見事に解決するなど、4月から、中央図書館が、大人も子どもも楽しめる図書館に生まれ変わりました。

「にぎやかエリア」には絵本キッズコーナーなどがあり、子どもたちがのびのびと楽しんでいます。くつろぎスペースでは、親子でお弁当をおいしそうに食べている姿もみられます。おむつ交換台や授乳スペースが新しく設置され、赤ちゃん連れでも安心して利用できます。

かたや、静かに読書を楽しみたい「大人向きエリア」は、穏やかなBGMが流れる本に囲まれた空間で、心ゆくまで読書を楽しめます。しかもこれまでの「館内飲食禁止」も見直され、館内でコーヒーを飲みながらゆったりと読書ができます。カプチーノやカフェラテが飲める自動販売機も設置され、心遣いが行き届いています。新たに屋外に設置されたウッドデッキテラスでは、芦原公園の四季を感じながら、読書を楽しむこともできます。

ますます快適になる図書館に一度出かけてみませんか。



**市役所交番誕生**

6月3日、牧落交番が市役所の南東角に移転しました。府内には約600か所の交番・駐在所がありますが、市役所の敷地内に建てられるのは初めてです。名称は今まで通り牧落交番です。

建物は市庁舎と調和したコンクリート打ち放しの2階建てで、丸みのあるきれいなデザインとなっています。

この交番の移転は100%国の交付金で行われたとのこと。箕面市の財政を痛めないで実行したのも、やりくり上手な倉田哲郎市長らしい取り組みです。

旧牧落交番が道路からやや奥まって、ひっそりと目立ちにくかったのに対して、新しい牧落交番は、視認性もよく、防犯や交通安全を始めとする市民生活の安全・安心に大きく貢献することが期待されます。

なお、旧牧落交番跡地は市の土地ですが、市役所前のメインストリートに面する一等地。商業施設への賃貸などが予定されているそうです。お店がさらに増えて、楽しくなるといいですね。

**18歳からの投票権!**

公職選挙法の改正により、来年度の選挙から18歳から投票権が得られることになりました。

箕面市ではちょうど来年選挙の年を迎えます。市長選や市議選は身近なことなので選挙権ができたことにとっても喜んでます。これからの箕面市について私たちの思いを一票にかえることができるので真剣に投票したいと思います。

北急延伸や桜井駅前の再整備など、これから変わっていく箕面市のためにも、ぜひ倉田市長には頑張ってもらいたいです。

桜井 18歳 男性



“箕面のチカラ”

“知恵と工夫” “スピードと実行力”で、  
未来の夢を確実に実現!!

箕面市長2期目の重責を担わせていただいてから3年が過ぎ、4年の任期も残り約1年となりました。

市長就任以来の7年間、「変えるべきは断固として変え、伸ばすべきは思い切って伸ばす」の姿勢を貫き、“知恵と工夫”、“スピードと実行力”を常に意識しながら、全力で各種施策を推し進めてきました。

とりわけ、箕面市の都市インフラに残された最後の重要課題「北大阪急行線の延伸」。昨年3月に、大阪府、阪急、北大阪急行、そして箕面市の4者が事業化合意に至り、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年度に開業を迎えることとなりました。箕面市にとって約半世紀にわたる積年の「夢」が、ようやく「現実」になりました。

また、教育改革をはじめ、保育所待機児の解消、中学校給食の開始、図書館の新設・再整備、防犯カメラの設置や災害対策の強化など、どの施策も、未来を見据えて、ぶれることなく本気で改革に取り組んできました。

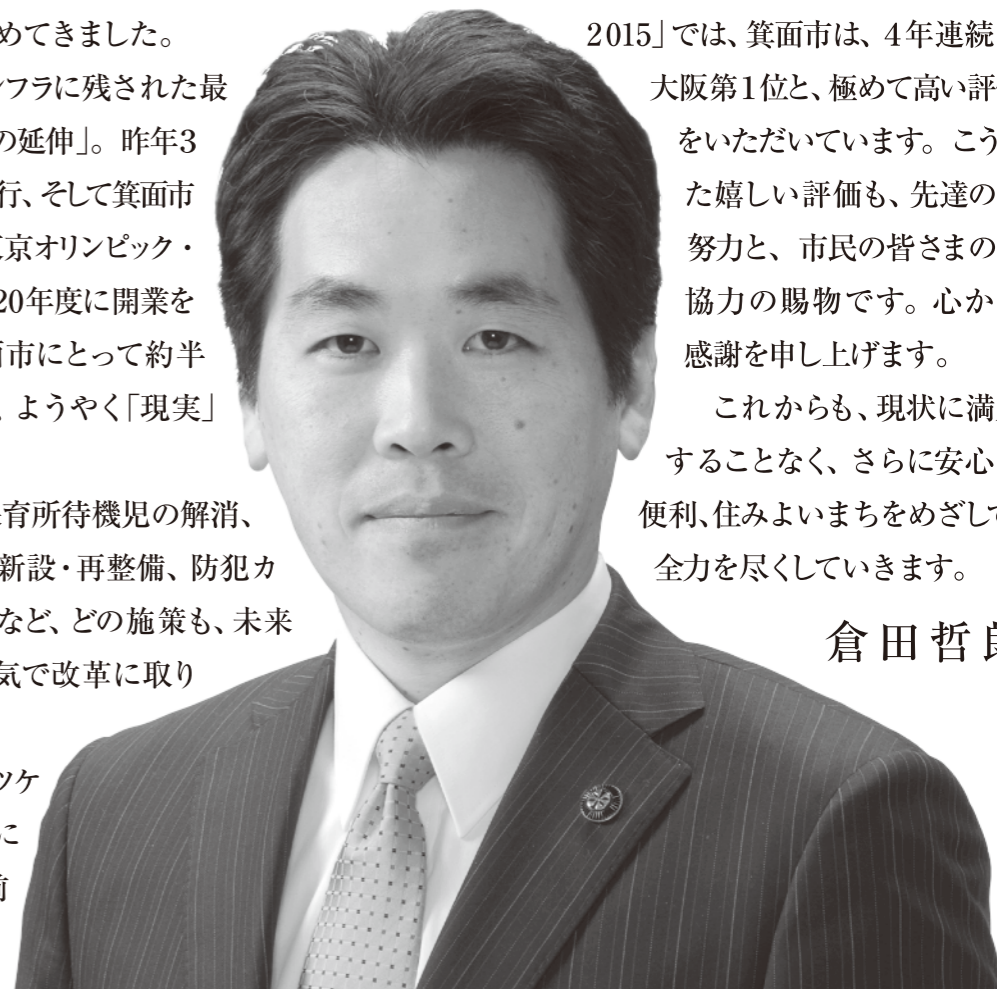
一方、「子どもたちの未来にツケを回さない」堅実な財政運営にも力を注いできました。7年前の市長就任時に、市制施行以

来、初の経常赤字決算という異常事態に対峙してから、徹底した行財政改革の断行によりV字回復を果たし、今では、毎年、完全黒字化を達成し続けています。いくつもの取り組みがしっかりと根づいた一つの証として、東洋経済新報社の「全国住みよさランキング

2015」では、箕面市は、4年連続で大阪第1位と、極めて高い評価をいただいています。こうした嬉しい評価も、先達のご努力と、市民の皆さまのご協力の賜物です。心から感謝を申し上げます。

これからも、現状に満足することなく、さらに安心して便利、住みよいまちをめざして、全力を尽くしていきます。

倉田哲郎





# 阪大箕面キャンパスが船場へ移転！

## 北急延伸の新駅前に

倉田哲郎市長が、またまた大きな仕事をやってくれました。テレビや新聞各紙が取り上げたので、すでにご承知のかたも多いと思いますが、去る平成27年6月17日、大阪大学の平野総長と倉田市長が共同記者会見を行い、大阪大学箕面キャンパスについて、「船場の新駅周辺への移転」に合意し、同日付けで覚書を交換したことを発表しました。



昨年3月31日に正式に事業化が決定した北大阪急行線の延伸。鉄道延伸だけでなく、新駅周辺のまちづくりも箕面市にとっては大きな課題で、将来のまちのグレードを左右する大切なテーマです。

新駅ができる船場地区は、すでにまちの更新期を迎えており、北大阪急行線の延伸を契機として、人が集い、交流するまちへ、新たな飛躍・発展が期待されています。その起爆剤として、今回の阪大キャンパス移転のニュースは本当に大きな意味をもつと思います。

学術研究という“文化”そのものがまちの魅力となる

と同時に、新キャンパス周辺に大学発のベンチャー企業を集積するなど、新たな可能性が広がります。また、大阪大学は、駅前の地域に溶け込んだ、新しい魅力を備えた都市型の新キャンパスをめざしているとのこと。閉じられたキャンパスではなく、まちなかで常に数百～数千人の学生・教員が活動する開放型のキャンパスとなることで、まち全体が活性化し、商業や市民活動の大きな活力となることを期待できます。

## でもなぜ、市内で移転する必要があるの？ 移転跡地はどうなるの？



同じ箕面市内なのに、わざわざ移転しなくてもいいのでは…？ そんな声も聞こえてきます。そこで少し調べてみました。

すると、思いもしなかったことがわかりました。「今回の船場移転がなかったとしても、大阪大学箕面キャンパスは箕面市から移転し、なくなる可能性があった」ということです。

大阪大学箕面キャンパスは、もともと大阪外国語大学という単独の大学でしたが、平成19年に大阪大学に統合されたものです。

統合後は、教養課程の学生が豊中キャンパスに吸収され、同キャンパスを利用する学生数が減少しただけでなく、豊中キャンパスや吹田キャンパスまで距離があるため、大学統合当初から、いずれは他市のキャンパスに統合されるのではないか、箕面キャンパスはなくなるのではないか、という懸念や噂が絶えず、市は大きな危機感を抱いていたようです。

実際、平成23年には、当時の総長が公式の場で、「外国語学部の修学環境の改善のためにも、外国語学部の吹田キャンパスへの移転の“青写真”を今年前半にはまとめたい」と発言されるなど、周知の事実となっていたようです。

そうした中、倉田市長は、北大阪急行線の延伸による船場地区の整備に着目し、大阪大学に誘致活動をしかけ、協議を重ねた末に、箕面キャンパスを船場地区に移転し、現キャンパス跡地を箕面市が保有して活用する方向で検討を進める旨の覚書を交換するに至ったとのことでした。



箕面市から大阪大学が撤退してしまうかもしれないという厳しい逆境をチャンスに変えて、新しいまちづくりの核にした倉田市長の手腕は見事です。新しくできる「大阪大学・駅前キャンパス」が箕面の発展の礎となることを期待します。

また、大学が移転した跡地は、なんとキューズモールの3倍、第二総合運動場の6倍もの広さ(約14ヘクタール)とのこと。このため、倉田市長は、他の教育機関の誘致や、箕面市に足りない運動公園のようなスポーツ施設などを検討すると表明しています。実際の移転には5年ほどかかるそうなので、少し先のことではありますが、移転跡地も、たくさんの市民が集い憩える場や、市の東部地域の賑わいの核となっていくよう注目し応援していきたいと思ひます。

## いつまでも元気はつらつ 高齢者

最近、倉田哲郎市長は、「箕面を、健康で長寿な人が多いといわれるまちにしたい。そのために市のあらゆる資源を活用して事業を展開する」とよく話しています。

実際に、倉田市長は、人生で介護などが必要な期間をできるだけ限り少なくし、いきいきと暮らしていただけるように、いろいろな取り組みを強力に進めています。

例えば、「ラジオ体操」の会場も20カ所まで増えました。毎週土曜日の「週末滝道ウォーキング」も続々と参加者が増えていきます。このほかに、「教室に通っていただく「転倒予防教室」「膝痛予防教室」「腰痛予防教室」「お口元気アップ教室」、市職員が地域に出張する「体力測定」「元脳測定」など、たくさんメニューが実施されています。多くのかたが参加され、とても好評とのこと。

さらに平成27年度からは、気軽に運動ができる身近な場所を増やすため、体操などの指導者を月1回、地域に派遣する新しい取り組みもスタートしました。

倉田市長は、今年度からの「第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の3年の期間内に、さらに元気メニューを充実させるため、福祉部局だけでなく市役所全体を挙げた検討体制をつくったとのこと。

どんなメニューが出てくるのか楽しみです。

## オレンジゆずるタクシーの運行開始



滝ノ道ゆずるの頭を屋根に載せ、ポップな装飾を施されたオレンジ色の車をよく見かけるようになりました。この車は、本年1月から運行を開始した「オレンジゆずるタクシー」です。

これまで、市では移動が困難な方に向けて、福祉車両4台で「福祉予約バス」を運行していました。しかし、福祉予約バスは、月1回の一斉予約で乗りたいたときに自由に呼べないことや、一斉予約日には電話が殺到して希望日が取れないこと、増加するニーズに対応できないことなど課題山積でした。

倉田哲郎市長は、こうした課題を一挙に解決し、普通のタクシーのように乗りたいときに呼ぶことができ、将来は独立採算で運営できる「オレンジゆずるタクシー」の運行をスタートしました。

「オレンジゆずるタクシー」は、車両数は3倍(12台)で、電話受付は7時から19時まで年中OK。また、料金は時間制で30分1,200円なので、道路がすいていけば宝塚大劇場や梅田の阪急百貨店で1,200円で行けそうです(※以後、15分ごとに600円加算)。

明るく元気な「オレンジゆずるタクシー」、是非、ご利用いただき、お出かけください。

◎配車センター ☎720-15565